

琉球大学学術リポジトリ

Thoracic manifestations of adult T-cell leukemia/lymphoma on chest CT : difference between clinical subtypes

メタデータ	言語: 出版者: University of the Ryukyus 公開日: 2021-04-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Yogi, Satotko, 與儀, 聡子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/48279

(別紙様式第3号)

論 文 要 旨

論 文 題 目

Thoracic manifestations of adult T-cell leukemia/lymphoma on chest CT :
difference between clinical subtypes

(胸部における成人 T 細胞白血病/リンパ腫病変の CT 所見 : 臨床病型の違いを中心に)

氏名 奥儀 聡子 印

【目的】 A T L の胸部 C T 所見が臨床病型によってどのような違いがあるかを検討した。

【方法】 A T L と臨床診断された 49 名の初診時（治療前）の胸部 C T 所見を後方視的に評価した。A T L の病型を、a g g r e s s i v e t y p e（n = 28, 急性型・リンパ腫型）と i n d o l e n t t y p e（n = 21, くすぶり型・慢性型）とに分類し、その違いを検討した。検討項目として、小葉中心性陰影、結節影、すりガラス影、c o n s o l i d a t i o n、気管支拡張、気管支血管束肥厚、気管支壁肥厚、小葉間隔壁肥厚、蜂窩肺、c r a z y - p a v i n g a p p e a r a n c e、リンパ節腫脹（鎖骨上窩・腋窩・縦隔・肺門）、胸水、心嚢水、皮下結節の出現率について検討した。統計はカイ 2 乗検定を用い、p 値が 0.05 未満を統計学的に有意とみなした。

また、i n d o l e n t t y p e と診断された患者のうち a g g r e s s i v e t y

p e への急性転化を来した10人の急性転化時についての胸部CT所見についても評価した。

【結果】 a g g r e s s i v e t y p e では、リンパ節腫脹がもっとも出現頻度の高い所見であった（68%）。肺野の所見としてはすりガラス影（36%）、気管支壁肥厚（32%）、結節（29%）、小葉中心性陰影（29%）が比較的高頻度にみられた。一方、i n d o l e n t t y p e では、リンパ節腫脹（24%）、気管支拡張（24%）がみられた。リンパ節腫脹（ $p = 0.002$ ）、すりガラス影（ $p = 0.034$ ）、気管支血管束肥厚（ $p = 0.007$ ）、小葉間隔壁肥厚（ $p = 0.013$ ）、胸水貯留（ $p = 0.007$ ）で有意差がみられ、総じて、i n d o l e n t t y p e よりも a g g r e s s i v e t y p e で多くの異常所見がみられた。

急性転化を来した患者ではリンパ節腫脹が多くみられた（80％）。

【結論】我々の調べた限り、過去にATLの胸部画像所見を臨床病型で比較した報告はない。胸部CTではリンパ節腫脹やすりガラス影、気管支壁肥厚などの種々の肺野異常陰影が特にaggressive typeでより出現することがわかった。気管支拡張については、indolent typeとaggressive typeで同程度の出現頻度であった。